

極一 継木から来た(6)

佐々喜夫

第一章 奥村の悲劇(一)

播磨の姫路から^自中国と山地の^間の^間中国山脈
 外山の山間を^{西に歩み入り}縫つて美作の國府所在地であつ
 古津山の南を^経て那岐山林鹿を^通る西へ歩
 みつづけ左半は奥美作の高原地帯と^{直交}郡
 から四十曲峠を下つて隣國の日野郡に出る出

佐藤氏用箋

雲街道といふのは、大和朝廷が出雲との連絡
 に通るをめぐりに早くから開けて山陽と山陰とを
 つなぐ重要な道であつた。その枝路の一つに
 津山から岡山へ抜けたものがある。

中国山脈の山をみか南へあふれ出てほぼ平
 行する二つの小高い山^のわきの小山脈を^つ
 こ^の山^の峽を利用してできた^のが^こ
 の枝路である。

その枝路の^北部、津山から福渡までのおよ
 そ五里はかりの間は西側に傾斜した地形で、